

（第1面）

産業廃棄物処理計画書 令和7年 4月 3日 札幌市長 様 提出者 住 所 〒061-2283 札幌市南区藤野3条3丁目6番7号 氏 名 宮浦興業株式会社 代表取締役 宮浦 征宏 （法人にあつては、名称及び代表者の氏名） 電話番号 011-591-6935 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	宮浦興業株式会社
事業場の所在地	札幌市南区藤野3条3丁目6番7号
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業 [06]
② 事業の規模	売上高530百万円、資本金30百万円
③ 従業員数	16人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	コンクリートガラ→収集運搬業者に委託→中間処理業者に委託し、再生砕石として再資源化 アスガラ→収集運搬業者に委託→中間処理業者に委託し、再生合材等として再資源化 建設汚泥→収集運搬業者に委託→中間処理業者に委託し、埋戻し材として資源化 廃プラスチック→収集運搬業者に委託→中間処理業者に委託し、再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
各現場（各現場代理人）→ 総務部（マニフェスト5年間保存）			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	排出量	別紙集計表のとおり	
	（これまでに実施した取組） ・ゴミを分別収集し、作業場内での教育を行う。 ・協力業者へ説明を行い、発生するゴミの抑制に協力してもらう。 ・産業廃棄物の分別による中間処理施設、再資源化施設への搬出。 ・有価物の分別による中間処理施設への搬出量の抑制。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	排出量	別紙集計表のとおり	
	（今後実施する予定の取組） ・現状での取り組みを継続する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ゴミかごを2種類～3種類に分けて設置する。 ・分別に関する知識にばらつきがある。 ・関係者へ分別収集を周知徹底させる。 ・有価物の分別による再資源化の向上。		
② 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・現状での取り組みを継続する。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
	① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
		産業廃棄物の種類	—	—
		自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	—	—
		(これまでに実施した取組)		
	② 計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	—	—
		自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	—	—
		(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
	① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
		産業廃棄物の種類	—	—
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	—	—
		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	—	—
		(これまでに実施した取組)		
	② 計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	—	—
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	—	—
		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	—	—
		(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	—
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	—
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・再生処理施設に委託する。		

(第5面)

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全 処 理 委 託 量		t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現状での取り組みを継続する。		
※事務処理欄			

産業廃棄物処理計画書・別紙集計表

① 現状

産業廃棄物の種類	廃プラ	木くず	廃アルカリ	がれき類 (アスコンがら)	がれき類	その他汚泥	合計
排出量	29.060t	3.30t	0.10t	1263.75t	25.38t	13.37t	1334.96t
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量							0t
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量							0t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量							0t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量							0t
全処理委託量	29.060t	3.30t	0.10t	1263.75t	25.38t	13.37t	1334.96t
優良認定処理業者への処理委託量	1.35t				25.38t	13.37t	40.10t
再生利用業者への処理委託量				1263.75t	25.38t		1289.13t
認定熱回収業者への処理委託量							0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							0t

② 計画

産業廃棄物の種類	廃プラ	木くず	廃アルカリ	がれき類 (アスコンがら)	がれき類	その他汚泥	合計
排出量	27.00t	1.50t	0.00t	1260.00t	25.00t	13.00t	1326.50t
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量							0t
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量							0t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量							0t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量							0t
全処理委託量	27.00t	1.50t	0.00t	1260.00t	25.00t	13.00t	1326.50t
優良認定処理業者への処理委託量	1.50t				25.00t	13.00t	39.50t
再生利用業者への処理委託量				1260.00t	25.00t		1285.00t
認定熱回収業者への処理委託量							0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							0t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請け完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模がわかるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項のすべてを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。